

一本の旅の指南

2.25 SPECIAL DINNER

1.50 Hamburger Steak

1.00 Duff Steak

EXTRA Sweet and Sour of Beef

0.15 Spaghetti

0.75 Spaghetti Meat Balls

0.15 Spaghetti Cheese

1.35 Mixed Potatoes

0.40 Beef Fried

0.40 Fried Liver

Mango

Edo-Mango

1.00 Tea Mango

1.00 Tis-tan Bread with Jam

1.15 Tibetan Bread with Honey

2.00 Vegetable Salad

1.00 Chouchou Medrice Noodle

1.50 Vegetable

1.50 Duff

1.00 Egg

1.50 Mutton

1.75

2.20

CARRY SPECIAL

2.50

1.50

1.00

0.25

35.00

45.00

一日の旅

中道東

おまえも来るか！

おまえも来るか！

摩呂湖帆路旅行出版局編

KATAMANDU

おまえも来るか！

中道東

一日の旅

摩呂湖帆路旅行出版局編

25/10/26

摩呂湖帆路旅行出版局編

おまえも来るか！ 中近東

一日一ドルの旅

まるごとほーろ旅行団出版局編

Toa
Sug
EE
)
Sli
(1)
oan
ad
h ()
wit
d
with
eklat
Par
mon
oney
anar
NEP
Lar
Sm
Da

口 上

いにしえの昔、伊太利國より東方を旅する者あり。その名をマルコポーロと称す。この男、無類の女好き、諸々の地に於て、子孫繁栄の為と日夜頑張らん。

六百年の年月を経た昭和元祿、マルコポーロの落し子の末裔と称する一味現わる。狂気か、正気か、まるこぼろ旅行団と称す。

団長のおじさん森本丈史以下、まるこぼろ旅行団出版局五名、御先祖様の霊を慰めんと老冊の書を世に出す。その書、名付けて「おまえも来るかノ中近東」と題す。

浜の真砂はつきるとも 世に話の種はつきまじ。この世に書物の出ること、万人の屁の如し。あるものは広く読まれ、あるものは廁の紙と化す。

今にいたるまで、旅の書も多くあらん。そのすべて欧羅巴の旅の書なり。中近東の旅の書、世に稀なり。この書、世の先駆とならん。

この書の内容たるや、天下一品、奇妙奇天烈、破廉痴、怒黎凡痴、石部金吉をも、爆笑の渦に巻き込まん。

この書を読みたる者、老若男女を問わず、必ずや中近東への旅を志ざさん。

大和の国の住人、この書を抱き、マルコポーロの縁りの地を旅する姿、まるこぼろ旅

行團一同、夜毎夢に見ん。
一九七一年十二月

磨呂湖帆路旅行団
団員一同

目次

シルクロードの四人組 おかざきてつを

(トルコからアフガニスタンへ)

- タクシーの運ちゃんは無免許だった 一三
Y・Hホテルはトプカピ宮殿のうら 一六
バザールはタヌキとキツネの住むところ 二三
日本語しゃべる、変なトルコ人に会う 二五
おれとおまえは兄弟だ 三一
日曜日は、バザールはお休み 三六
マドリッドユースホステルの青春 三八
マドリッド日本人学校生徒による 四四
のみの市日本製品たたくうり 四五
そもそも始まりはギリシアだった 四八
团长、泥だらけのマラソンをする 五三
ノアの方舟の山 五五
ヒッチハイカーはアメリカ・インディアン 六二
の娘だった

アメリカン・ビルの日本人台帳

六六

テヘラン名物へそ踊り

六八

踊り子はオペラグラスで口説くもの

七三

メッシュッド行バスは忍耐バス

七六

街の中心はイمام・レザー霊廟だった

八〇

メッシュッド小学校の先生はホモだった

八五

お食事のあとは、水たばこを吸うべし

九八

イラン風呂屋のマッサージは命がけ

一〇一

国境は昼休み

一〇四

センチメンタル国境

一〇七

日本人びいきのアフガニスタン国境

一一二

ヘラットの夜の女は、毛皮屋の

一一二

かあちゃんだった

一一六

荒野の七人、真昼のしゃがみシヨンベンの巻”二二三

一一三

フランス人麻薬中毒患者、

一一七

突然、我々四人を襲う

一一七

夕暮れのカンダハル殺人事件

一二〇

カブールまであと五十キロ

●一三七

カイバル峠に日は暮れて 森本たけし

一四三

(アフガニスタンからインドへ)

カブールへの道

一四五

カイバル峠に日は暮れて

一五四

デリーへデリーへとタキちゃんはなびく

一六二

デリーで目の保養

一六五

デリーよさらば!

一六八

カトマンズの青春

一七五

黒崎たかし

死の街、聖地ベナレス

一七七

カトマンズへの道

一八七

あこがれの街カトマンズ

一九六

カトマンズの夜は明けて

二〇〇

特別付録「日本人とネパール人」

二〇三

ベイカー・パーティ

二〇四

ラジギール温泉の念仏

二〇八

さらばカルカッタ!!さらばインド!!

さらば中近東!!

二二六

グラナダの夢

岡崎伊四郎

二三二

本格的トルコ風呂体験記

まつむらしんじ

二三九

おまえも来るか! 中近東

一日一ドルの旅